

HRBC API ユーザーアプリケーション 開発にあたっての注意事項

作成: 2016/09/29



<目次>

1. 当資料の目的
2. 開発にあたっての注意事項
3. HRビジネスクラウドのデータ構造
4. アクセス数のカウント方法に関する注意事項
 - ・ 認証
 - ・ データ取得、登録処理
 - ・ パフォーマンスの考慮
 - ・ プログラムメンテナンスの考慮

1. 当資料の目的

- 当資料は、HR Business Cloud（以下HRBC）利用ユーザーやアプリケーションを開発する制作会社を対象に、HR Business Cloud API（以下HRBC API）の仕様をご理解いただき、スムーズな開発を行うための補助資料として作成いたしました。
 - 開発前の開発仕様検討・想定APIアクセス数の見積
 - 開発時に実装する仕様の確認
- HRBC APIとは、HRBCに登録されている情報を利用したアプリケーションを開発するためのWeb APIです。自社サイトへの求人情報掲載、求職者エントリー、マイページなど、HRBC上にあるデータと連携する為等のシステム連携に使用します。
- HRBC APIの仕様は、開発時に別途提供しているAPI仕様書をご確認ください。

2. 開発にあたっての注意事項①

【APIアクセスへの課金体系】

- APIは1アクセス単位で課金され、毎月15万アクセスまでは月額3万円です。
超過1万単位毎に月額2,000円ずつ加算されます。
(例：3万アクセス超過：6千円の超過料金が発生)
※2016年4月14日現在
- 開発したユーザーアプリケーションを運用開始後、想定外のAPIアクセスが発生し、意図せずして予算を大幅に超過するケースがございます。
- 必ず開発前にサイト全体の想定APIアクセス数を算出し、アクセス超過が起こらないように開発をお願いいたします。

2. 開発にあたっての注意事項②

【API形式】

- APIのInterfaceはRESTをベースに設計されています。
- HTTP RequestのGETとPOSTを使用して各業務データにアクセスし、読み書きを行うことができます。
- 通信のデータフォーマットはXMLを使用します。

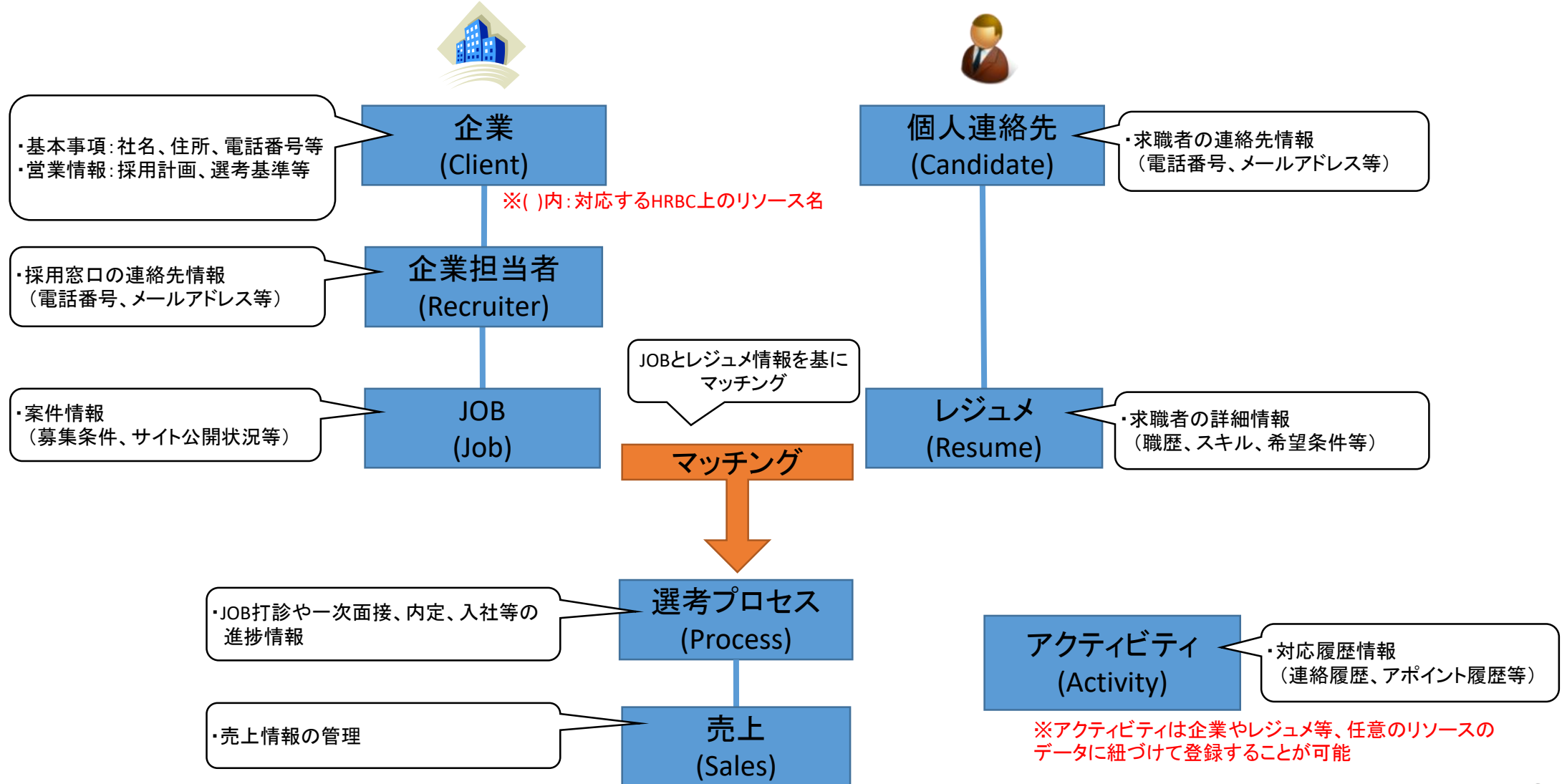
【開発環境・実行環境】

- HTTP RESTでのアクセスなので、HTTP Requestを制御できる開発言語であれば自由に選択できます。実績としてはJavaとPHPが多いですが、.NET Frameworkでも問題ありません。
- アプリケーションを実行するWeb Serverを事前に登録しておく必要があります。
(事前に登録されたWeb Server以外からの認証は拒否されます)

【その他の注意事項】

- 日付型データはUTCとして扱われます。

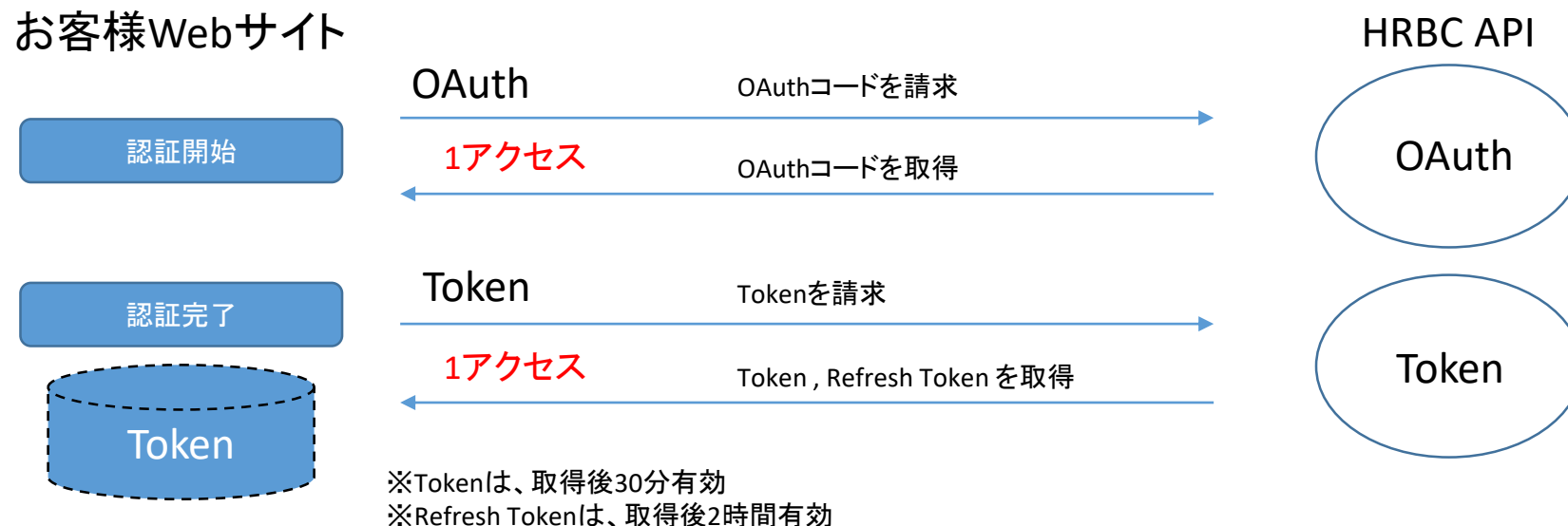
3. HRビジネスクラウドのデータ構造



4. アクセス数のカウント方法に関する注意事項①

【認証】

- 認証と権限付与はOAuth2.0ベースのアーキテクチャで構成されています
- 認証には有効期限があり、30分経過し認証が切れたら再認証する仕組みを実装してください。尚、認証用のAPIも1アクセス単位で課金されます。
- 認証に失敗し、処理がループしたケースがございますので、エラー処理を考慮した実装を行ってください。認証に失敗してAPIアクセス数が増大した場合も課金対象となりますのでご注意ください。



4. アクセス数のカウント方法に関する注意事項②

【データ取得・登録処理】

- 求人情報検索画面など、HRBCからデータを取得して、アプリケーション上で表示する処理は、APIアクセス数が多くなる傾向にあります。効率的な処理を実装し、アクセス数が少なくなる様にしてください。

例えば、サイトの求人検索画面において、job_rを用いることで企業とJOBのデータベースにある情報をまとめて取得できます。

(※次ページの実装例を参照)

- 1回のRequestで処理できるレコード数は取得(Read), 登録(Write)ともに200件までです。大量のデータを処理したい場合は、200件ずつ区切って処理していく必要があります。

4. アクセス数のカウント方法に関する注意事項②

【データ取得・登録処理：実装例】

お客様Webサイト

HRBC API

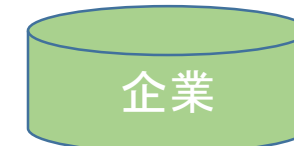
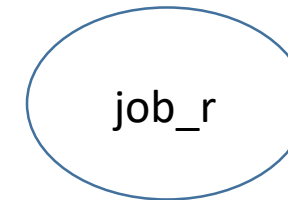
検索画面にて**職種(JOB項目)**で検索



job_r 1アクセス(※)



企業・JOB情報をまとめて取得



【企業項目】
企業名、事業内容



【JOB項目】
職種、勤務地、年収

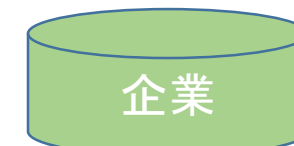
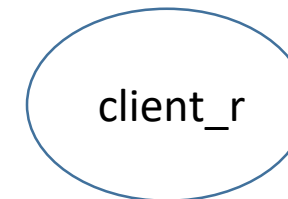
検索画面にて**企業名(企業項目)**で検索



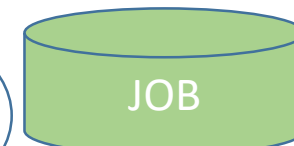
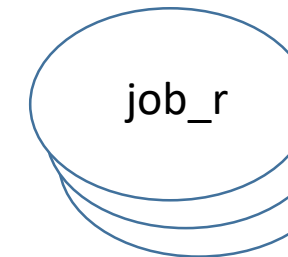
client_r & job_r N(企業数)+1アクセス(※)



企業情報を取得した後、各企業に紐づくJOB情報をそれぞれ取得する



【企業項目】
企業名、事業内容



【JOB項目】
職種、勤務地、年収

※1回にそれぞれのAPIで取得する件数が200件以内の場合のアクセス数です。

4. アクセス数のカウント方法に関する注意事項③

【パフォーマンスの考慮】

- JOB情報を自社サイト上に公開する等の場合において、ユーザーアプリケーションへの外部アクセスが想定以上に集中することがあります。
- 外部アクセスで直接HRBC APIを実行する場合、アクセス数の増大に繋がります。データベースやサーバーのメモリ等へデータのキャッシュ化を行い、キャッシュ化したデータから定期的に情報を取得する等、パフォーマンスを考慮した設計を行ってください。
- googleクローラー等によるユーザー閲覧以外のアクセスについても考慮が必要です。
- 上記を考慮せず、APIアクセスが頻繁に発生する場合、想定以上のAPIアクセス超過が発生することがあります。

4. アクセス数のカウント方法に関する注意事項③

【パフォーマンスの考慮】

中間DBを保持することによる、データのキャッシュ化の実装例。

例) 求人2,000件、該当データ400件、サイトアクセス1日300件の場合の比較

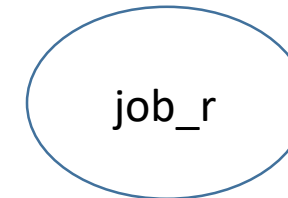
お客様Webサイト

HRBC API

1. 直接API経由でHRBCのDBにアクセスする場合

合計600アクセス

検索画面にて職種(JOB項目)で検索

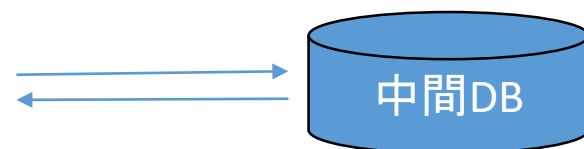


2,000件

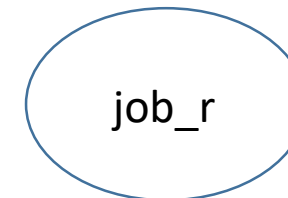
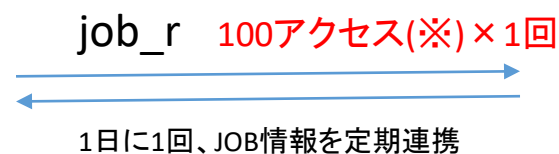
2. 中間DBを保持し、1日に1回バッチで定期連携する場合

合計100アクセス

検索画面にて職種(JOB項目)で検索



2,000件



2,000件

※1回にそれぞれのAPIで取得する件数が200件以内の場合のアクセス数です。

4. アクセス数のカウント方法に関する注意事項④

【プログラムメンテナンスの考慮】

- HRBCはユーザー側で自由に項目マスタの変更が可能です。
- その為、アプリケーション開発後にHRBC側で項目マスタを変更した場合、アプリケーションの連携項目に影響が出る可能性があります。
- 上記を考慮し、項目や選択肢のエイリアスを設定ファイル等に定義して、後で変更可能な設計をすることで、プログラム保守コストを抑えることが可能です。